

ご自由にお持ち帰りください

医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 広報誌「むさし」

MUSASHI

Vol.08
2022年5月発行

M
C
R
C
始
動。
。



MUSASHI

Vol.08

2022年5月

本誌は無料です。ご自由にお持ち帰りください。

制作 / 武蔵ヶ丘病院 広報部

医療法人 田中会
武蔵ヶ丘病院

〒861-8003 熊本市北区楠7丁目15-1

TEL.096-339-1161(代表) FAX.096-339-4717(代表) [武蔵ヶ丘病院](#) [検索](#)



外来予約専用ダイヤル ☎ **096-339-1155**

外来のご予約は、受診希望日の前日までにお電話をお願い致します。
尚、定期受診の方が対象となっており、初診の患者様はご予約をお受け致しかねますので、
ご了承ください(予約制の診療科は除きます)。

武蔵ヶ丘病院のことを地域の皆様に「もっと知っていただきたい」、
「好きになっていただきたい」という想いから MUSASHI は誕生しました。
当院の取り組みをはじめ、医療のことや地域のことなど
様々な情報を発信しています。ぜひお楽しみください。

CONTENTS

03 特集 武蔵ヶ丘臨床研究センター MCRC 始動。

- ・センター長 田中 慎一郎、主任研究員 藤井 廉 挨拶
- ・設立までの歩み
- ・今後の研究と取り組み

09 CROSS TALK クロストーク

第6回『新型コロナに立ち向かう看護師たち』
一般病棟師長 久米 隆道 × 外来師長 川元 兼広

11 「訪問診療」ってなに？

13 NEWS & TOPICS

- ・新規医師着任のお知らせ etc.

今号の表紙



(右)主任研究員 藤井 廉
(左)臨床研究員 野中 裕樹



祝
ご入職
おめでとう
ございます

4月1日金曜日、令和4年度の武蔵ヶ丘病院入職式を執り行いました。
式典では、緊張な面持ちの新入職員へ向けて、田中英一理事長と水流添周院長から歓迎と激励の言葉が贈られ、新入職員からは新入職員代表者が答辞として決意の言葉を述べました。
式典が終わると、すぐに研修がスタートし、合計3日間に及ぶ研修で当院についてしっかりと学んでいただきました。
昨今のコロナ禍により不安なことも多いと思いますが、地域に根づく病院として、患者さんが必要としている医療・介護を提供できるように、これから一緒に頑張っていきたいと思います。彼ら・彼女らの今後の活躍に期待ください。

本誌に掲載されている職員の写真は感染対策を徹底し、
撮影時のみマスク・フェイスシールド・ゴーグル等はずして
撮影しております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



発行年月 2022年5月
制作 武蔵ヶ丘病院 広報部
院長 水流添周

センター長・主任研究員 挨拶

当 院はこれまで、リハビリテーション医療の更なる質の向上に向けて、臨床研究に取り組んでまいりました。

そしてこの度、“これまで”と“これから”の研究活動をより社会的意義のあるものにするべく、新たな研究機関「武蔵ヶ丘臨床研究センター(MCRC)」を設立することといたしました。センター設立にあたり、私たちは3つの目的を掲げました。1つ目は武蔵ヶ丘病院の一部門として臨床と研究を有機的に結ぶためのプラットフォームを担い、科学的でかつ適正な医療と介護の普及と発展に貢献すること。2つ目は地域における医療関連研究拠点として、他の医療機関や教育機関、民間企業等と提携し、医療課題の解決を図ること。そして3つ目は医療関係諸氏や近隣の地域住民に対して、医療に関する適正な情報を提供し、社会的貢献を図ることです。

様々な実践的研究を継続的に行い、科学的根拠(エビデンス)に基づく最適な医療を確立させ、地域の皆様への質の高い医療の提供に繋げることが当センターの使命だと考えております。

当院が目指す「大きな桶のような地域に根ざした病院」の一員として、MCRCの活動が地域の皆様のお役に立てるよう精一杯努力してまいりますので、これからよろしくお願い申し上げます。



センター長
田中 慎一郎 医師
たなか しんいちろう

リハビリテーション科医。
脳卒中、脊髄損傷、摂食嚥下障害を専門領域とする。
YouTubeを通じたアウトリーチ活動も積極的に展開している。



主任研究員
藤井 廉 理学療法士
ふじい れん

修士(健康科学)を取得。
痛みのニューロリハビリテーション・脳卒中後症例の歩行研究に取り組んでいる。

私 はこれまで、理学療法士として「慢性的な痛みを有した患者様に対するリハビリテーションプログラムの開発」や「リハビリテーションロボットの効果検証」、「IoTを活用した歩行分析システムの構築」に関する研究を実践してきました。これからMCRCでは、上述のようなリハビリテーションを意図した研究はもちろんのこと、医師の先生方や看護師、薬剤師のスタッフらと協業することによって、分野横断的な幅広い臨床研究を展開していきたいと考えています。

一連の研究活動を通じて、科学的根拠に基づく安心・安全で質の高い医療技術を創出し、それら研究成果を患者の皆様へ届けることができるよう、取り組んでまいります。

「エンジョイ リサーチ」をモットーに、MCRCに関わる全ての方々のお役に立てるよう尽力してまいりますので、ご協力・ご支援よろしくお願い申し上げます。

特集

MCRC 始動。

これまで当院では、リハビリテーション部を中心に日頃の診療業務に加え、研究活動に積極的に取り組んできました。

そして昨年末、これまでの実績が研究機関として評価されて『文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関』として指定を受けることができ、今年4月に院内に武蔵ヶ丘臨床研究センター「Musashigaoka Clinical Research Center」(通称: MCRC)を新たに設立いたしました。

そこで今回は、研究機関として新たなスタートを切ったMCRCについて詳しくご紹介していきます。



文部科学省の“科学研究費助成事業”とは？

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

学術論文(2022)

- ◆ **著者** Ren Fujii, Ryota Imai, Shinichiro Tanaka, Shu Morioka (筆頭)
論題 Task-specific fear influences abnormal trunk motor coordination in workers with chronic low back pain: a relative phase angle analysis BMC musculoskelet Disord. 2022. 23 (1)
- ◆ **著者** 野中 裕樹、藤井 廉、大本 祐太、安丸 直希、前田 聡一郎、田中 慎一郎、田平 一行
論題 左室駆出率が保持された高齢心不全患者における Short Physical Performance Battery で分類した身体機能に関連する要因の検討 循環器理学療法学. 2022. 1(1)

4月

たなか しんいちろう
医師 田中慎一郎

MCRCセンター長に就任



令和4年度

2022

12月

7日、文部科学省から科学研究費補助金取扱規程に規定する研究機関としての指定を受ける

令和3年度

2021

3月

たまり まこと
玉利 誠氏

(令和健康科学大学 所属)

武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション部

研究顧問に就任



博士(保健学)を取得。令和健康科学大学の教授として教育と脳計測科学・バイオメカニクス研究に取り組んでおり、現在はMCRCの研究顧問として幅広い視野からアドバイスを行う。

令和2年度

2020

表彰(2019)

- ◆「第23回 熊本県理学療法士学会」新人賞
受賞者 田宮 史章
演題名 整形外科的選択的癒性コントロール術後における身体運動制御の経時的変化
- ◆「第23回 熊本県理学療法士学会」新人賞
受賞者 後藤 優希
演題名 低栄養状態を呈した入院高齢患者に対するリハビリテーション栄養の実践



令和元年度

2019

4月

ふじい れん
理学療法士 藤井 廉

リハビリテーション部

臨床研究員に就任



平成30年度

2018

現在に至るまでの歴史をご紹介します。

研究実績と
設立までの歩み

2022 2017

平成29年度

2017

4月

MCRC 設立

10月

文部科学省へ本申請書の提出

学術論文(2021)

- ◆ **著者** Yoichi Tanaka, Hayato Shigetoh, Gosuke Sato, Ren Fujii, Ryota Imai, Michihiro Osumi, Shu Morioka (共著)
論題 Classification of circadian pain rhythms and pain characteristics in chronic pain patients: An observational study Medicine. 2021. 100 (25)
- ◆ **著者** Yoichi Tanaka, Gosuke Sato, Ryota Imai, Michihiro Osumi, Hayato Shigetoh, Ren Fujii, Shu Morioka (共著)
論題 Effectiveness of patient education focusing on circadian pain rhythm: A case report and review of literature World J Clin Cases. 2021. 9 (17)
- ◆ **著者** Ren Fujii, Ryota Imai, Shinichiro Tanaka, Shu Morioka (筆頭)
論題 Kinematic analysis of movement impaired by generalization of fear of movement-related pain in workers with low back pain PLoS One. 2021. 16 (9)
- ◆ **著者** Yuki Nishi, Hayato Shigetoh, Ren Fujii, Michihiro Osumi, Shu Morioka (共著)
論題 Changes in trunk variability and stability of gait in patients with chronic low back pain: Impact of laboratory versus Daily-living environments J Pain Res. 2021. 14



学術論文(2021)

- ◆ **著者** 舞田 大輔、吉永 寛生、後藤 玲奈、藤井 廉、田中 慎一郎
論題 橈骨遠位端骨折患者の運動機能と物品操作に末梢神経感覚刺激とMental Practiceの併用が及ぼす影響～症例報告：箸操作獲得に向けた介入経過の一考察～ 作業療法. 2021. 40 (4)

学術著書(2020)

- ◆ **著者** 藤井 廉 他、
書籍名 脳とこころから考えるペインリハビリテーションーひとをみるという志向性ー (杏林書院)



表彰(2021)

- ◆「第8回 日本予防理学療法学会学術大会」優秀賞
受賞者 藤井 廉
演題名 作業関連動作時の体幹運動を阻害する要因の分析～課題特異的な運動恐怖に着目して～
- ◆「九州作業療法学会 2021 in 熊本」優秀演題賞
受賞者 舞田 大輔
演題名 当院一般病棟および地域包括ケア病棟入院患者の作業機能障害に関する実態調査～Person-Environment-Occupationモデルに基づく特性分析～

学術論文(2020)

- ◆ **著者** 藤井 廉、今井 亮太、西 祐樹、田中 慎一郎、佐藤 剛介、森岡 周 (筆頭)
論題 運動恐怖を有する腰痛有訴者における重量物持ち上げ動作時の運動学的分析 理学療法学. 2020. 47 (5)

4月

理学療法士 藤井 廉
研究助成金の獲得
(公益社団法人熊本県理学療法士協会の理学療法に関わる研究の助成)



4月

のなか ゆうき
理学療法士 野中 裕樹

リハビリテーション部 臨床研究員に就任



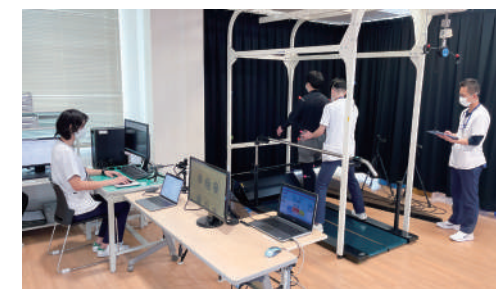
修士(健康支援科学)を取得。呼吸循環器のリハビリテーション・骨格筋機能評価に関する研究に取り組んでおり、現在はMCRCの臨床研究員として研究活動に勤しむ。

表彰(2017)

- ◆「第39回 九州理学療法士・作業療法士合同学会」優秀賞
受賞者 藤井 廉
演題名 リサーチ図形を用いた複数課題条件下における歩行評価の有用性の検討
- ◆「第21回 熊本県理学療法士学会」新人賞
受賞者 木村 友美
演題名 アルツハイマー型認知症を有したパーキンソン病患者を経験して

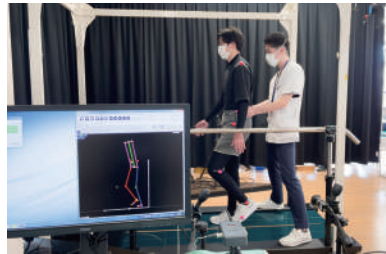
表彰(2018)

- ◆「第22回 熊本県理学療法士学会」新人賞
受賞者 大仁 田彩
演題名 腰椎圧迫骨折後、腰部痛が遷延化した日常生活動作の獲得に難渋した一症例～痛みに対する教育的介入に着目して～



リハビリの効果や症状との関係性など、その原因も含め、追究していく。

右記以外にも、リハビリに関する様々な事象に対し、研究に取り組んでいきます。



腰や膝に痛みをお持ちの方の体の動かし方の異常さや症状との関係について調べます。



リハビリロボットをはじめとする先端機器の治療効果や改善メカニズムを検証します。



骨粗鬆症や身体的虚弱の実態を調査し、効果的な予防策の開発を試みます。



IoT(モノのインターネット)を活用した、近未来的なリハビリ機器の開発・検証に取り組みます。



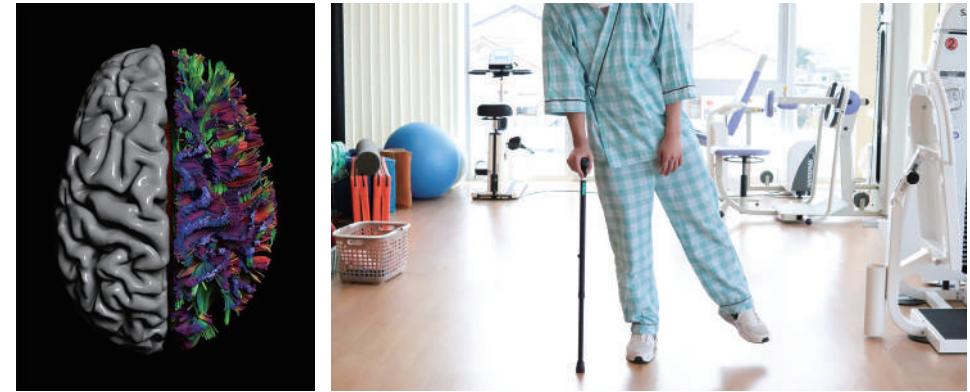
食事の摂り方や栄養バランスの違いがリハビリ効果にどう影響するのかについて調べます。



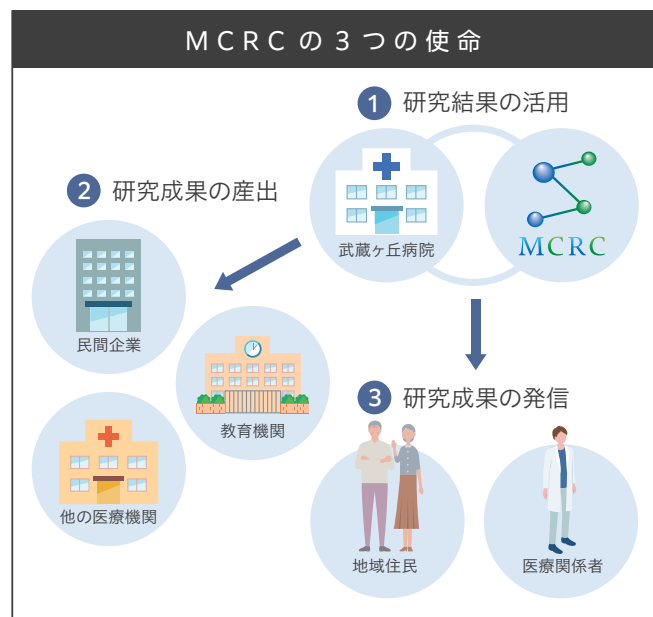
心臓や呼吸器に障害をお持ちの方の運動能力の特徴やリハビリ効果について調べます。

今後の研究と取り組み

脳卒中を発症すると、なぜ歩きづらくなるのか？
関連する要因やメカニズムを明らかにする実証的研究を開始。

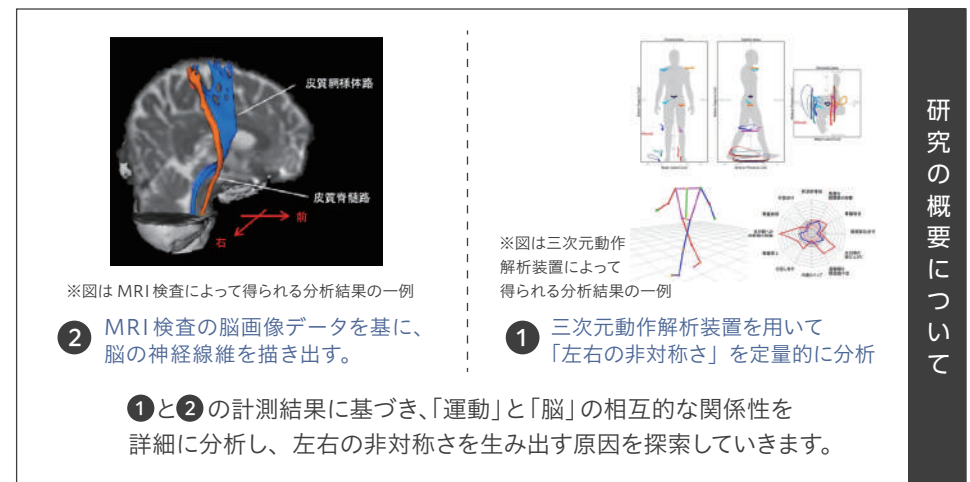


脳卒中を発症後、「歩きづらさ」「歩くときに一方の足の感覚がおかしい」といった症状でお悩みではありませんか？
脳卒中を発症した後に生じる代表的な歩行の問題として、「左右の非対称さが挙げられます。この左右の非対称さとは、歩幅や片足で支える時間が「麻痺が生じている足」と「麻痺が生じていない足」で顕著に異なる現象を指します。左右で症状の差が強いほど「バランス能力の低下」や「歩行の効率性の低下」を招きやすいため、脳卒中発症後は、左右の非対称さの改善を目的としたリハビリが極めて重要となります。しかし、このような現象が起きることについて詳細はまだに明らかとなっておらず、効果的なリハビリはこれまで確立されていませんでした。
そこでMCRCは、この現象に着目し、関連する要因やメカニズムを明らかにする実証的研究を開始することにしました。



この使命を果たすことで、質の高い医療と介護の普及・発展に貢献できるよう、MCRCはこれからも研究活動に取り組んでいきます。今後の活動に是非注目ください。

- 質の高い医療と介護の普及・発展のために。
- MCRCは、次の3つの使命を掲げています。
- 1 当法人における実際の医療・介護現場での「研究成果の活用」
 - 2 外部機関との協業による「研究成果の産出」
 - 3 医療関係者や地域住民への積極的な「研究成果の発信」



さらに、将来的には脳卒中の発症によって生じる「左右の非対称さ」の改善を目的とした「生体力学(バイオメカニクス)×神経科学(ニューロサイエンス)」を掛け合わせた新たなリハビリ機器の開発などにも着手したいと考えています。





外来師長
看護師
川元 兼広
天草市出身。
趣味は体を動かすこと。

一般病棟師長
看護師
久米 隆道
山鹿市出身。
趣味はマラソン。

職員と職員が語り合う。
**CROSS
TALK**

第6回 新型コロナウイルスに立ち向かう看護師たち

コロナ禍になって2年。これまでを振り返っていかがですか？

久米 2年前はまだ僕が外来にいた頃で、まだコロナを身近に感じてない頃だったと思います。そんな中、僕は一般病棟に、川元師長は外来に異動になったんですよ。

川元 そうでしたね。確か2020年11月に当院が熊本県の「診療・検査医療機関」として指定を受けたことで「発熱外来」を設置して、発熱外来専用のコンテナを駐車場に増設して、発熱症状のある方やコロナの感染疑いがある方の診察や検査が始まったんですよね。

久米 最初の頃は大変でしたね。
川元 大変でした。うちはかかりつけの患者さん以外も診ていましたし。診察方法は、駐車場の車内で待機していただいている患者さんのところへ医師と看護師で出て車内で診察をして、PCR検査は外部の検査機関に委託する方法で今も変わりないのですが、その頃に比べると今は検査自体が随分身近になったと思います。ドラッグストアで抗原検査キットが買えるし、無料のPCR検査場も作られていますし。それでも外来にはコロナの感染疑いがある方や発熱などの症状ある方がたくさん受診されるので、私たちが感染を拡げないように注意しながらやっています。

久米 外来はそうですね。病棟に来る患者

さんは入院時の検査で陰性の確認をした方になるので、スタッフは患者さんに対して「感染の可能性はおそらく低い」と思って接していた部分があると思います。結構あったと思うんですけど、陰性だった方が入院後の検査で陽性になった事があって、そこから病棟スタッフの意識がガラッと変わりました。その方と接触したスタッフは全員自宅待機になってしまったし、あの時は大変でした。

川元 院内で陽性者が増えた時は、外来や救急診療も制限されましたよね。

久米 そうですね。入院も制限されたので、地域の患者さんには「迷惑をかけてしまいました」「入院を制限する」ということは「救急の患者さんを受け入れられない」ということになるので、その状況には結構ジレンマがありましたね。

川元 うちがかかりつけの病院なのに対応できなかつた患者さんも何名かいて、申し訳なかったですね…。

久米 入院患者さんは面会もずっと制限されてますよね。やっぱり会えない分、以前に比べると不安を訴えられるご家族が増えたように感じます。口頭の様子をお伝えしても直接会って本人の状態を見るのとは見えないのじゃ違いますし、会えない期間が長くなるほど状態のイメージがしづらくなるのかなと思います。ご家族へ本人の状態を説明する時は、出来る限り分かりやすい言葉で説明するように心掛けてはいますが、

医療現場から患者さんに伝えたいことは？

川元 是非「不織布マスク」の着用をお願いします。不織布マスクは他のマスクに比べて、感染予防の効果が高いので、来院時にはなるべく不織布マスクの着用をお願いしたいです。

久米 僕もそれに尽きると言います。病院はどうしても人が多く集まる場所なので、感染のリスクは高い場所だと考えられます。ですので、病院には出来る限り不織布マスクの着用をお願いします。あとは手洗いや手指消毒など、基本的な感染対策を行っていただきたいです。

川元 手指消毒用のアルコールは院内にもたくさん設置しているので、習慣化していただくと感染を予防できると思います。

今年度はどんな一年になつてほしいですか？

川元 コロナの収束を願うしかないですね。患者さんが安心して来院していただける病院にしたいです。
久米 元通りにはならなくても、以前のよう、人と人との交流がある普通の日常に早く戻ってほしいというのが、率直な願いです。

「分かりやすさ」を意識したばかりに、逆に軽く捉えられてしまったこともあったので、説明には配慮しますね。やっぱり短時間でも良いので面会ができる状態に戻ってほしいです。確か去年の12月に一時的に面会制限を解除したじゃないですか？
川元 確か3週間くらい解除しましたね。密を避けるために面会者の人数制限を設けたり、スタッフを配置したりと大変でしたが、あの期間は良かったですよ。やっぱり「家族の力」って大事だと思います。「ご家族に会うとリハビリの意欲も上がりますし。その期間は、病棟も活気があったように感じます。

今後、必要な備えとは？

久米 いつ何が起きても対応できるように、色々な事を想定しながら働くこと、物品の備えは必要だと思えます。良くも悪くも入院患者さんから陽性者が出た経験をしたことで、現場のスタッフは感染対策への知識や感染症に対する対応が多少は身についたと思うんです。指示を出す管理者が常に現場にいるわけではないので、次また同じことが起きた場合に今だったらどういう対応がベストなのかを、僕を含めて現場のスタッフは日頃から考えながら働く



患者様のご自宅にて

04 訪問診療の対象となる方



医師の判断が必要です

訪問診療は、医師により「通院による療養が困難」と判断にされた方が対象になります。

05

訪問診療でできること(主な診療内容)

通常診療

自宅や施設等に医師、看護師が定期的に訪問し、診察、お薬の処方を行います。



点滴・薬剤の投与

体調が悪く点滴が必要と判断された場合は、「訪問看護」と連携し、自宅で点滴を行います。



カテーテル管理

膀胱留置カテーテル(※1)の管理が必要な方は、「訪問看護」と連携し、自宅でカテーテルの管理・交換を行います。



血液検査

定期的に採血が必要な方や体調が悪い方は、自宅や施設等で採血を行います。



経管栄養管理

自宅で経管栄養(※2)が安全にできるよう、物品の管理や挿入部の皮膚の観察などを行います。



がん緩和ケア

自宅で疼痛コントロール(※3)、症状の緩和を行い、生活の質を落とすことなく患者様とご家族が安心してご自宅で過ごせるよう、「訪問看護」と連携し、サポートします。

看取り

住み慣れたご自宅または施設でその人らしく最期を迎えられるよう、「訪問看護」と連携し、在宅でのサポートを整え、看取りを行います。

予防接種

インフルエンザ、新型コロナワクチン等の予防接種を自宅で行います。



(※1) 何らかの理由で尿が排泄されなくなった場合に、尿を排出させるため、尿道から膀胱へ挿入するチューブ(くだ)のこと。
 (※2) 自分の口から食事をとることが不可能あるいは不十分な患者に対し、体外から消化管内に通したチューブを用いて流動食を投与する処置のこと。
 (※3) 疼痛(とうつう)とは、医学用語で「痛み」のことを言い、疼痛コントロールとは、がんなどの疾病による痛みが緩和されるよう管理すること。

「訪問診療のことをもっと詳しく聞きたい」という方は、お気軽にお問い合わせください。

武蔵ヶ丘病院 ☎096-339-1161 (代表)

お気軽にご相談ください



施設にて

01 訪問診療とは?

訪問診療とは、「通院が困難な方の自宅や入所されている施設等に医師が訪問し、診療を行う」ことを言い、緊急性や訪問頻度などによって「往診」と言う場合もあります。

医師と看護師がペアになってお伺いします



02 「訪問診療」と「往診」の違い

訪問診療

患者様の同意を得て、計画的な医学管理のもと、定期的に患者様の自宅や施設等に医師が訪問して行う診療のこと。



往診

患者様またはご家族等の直接の求めに応じ、可能な限り急いで、患者様の自宅や施設等に医師が訪問して行う診療のこと。



訪問先には車で伺います



03 武蔵ヶ丘病院の診療体制

訪問先の対象エリア

当院から訪問先まで自動車
15分以内の方が対象

医療保険では、病院から患者様の自宅や施設等までの直線距離で16km以内と定められていますが、当院では自動車
15分以内程度の範囲で訪問しています。

医師の数

医師4名体制で対応

現在当院では4名の医師が訪問診療(往診)に従事しています。

診療科目

総合診療科

現在は内科医3名、外科医1名が総合診療科として対応しています。

※診療時間につきましてはお問い合わせください。

武蔵ヶ丘病院
水流添 周院長

現在は、平均して1ヶ月あたり約100件の訪問を実施しています。



訪問診療

ってなに?

今回は、近年ニーズが高まってきている訪問診療についてご紹介いたします。

